

六甲カトリック教会 教会報

2024

7

No. 631



ともに歩める教会を

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

昨年シノドスが開催されました。その前後から、カトリック教会全体がシノドス的な教会、つまり、ともに歩む教会に変わっていきこうという動きが意識されるようになりました。大阪高松教区が具体的にどのような動きをするのかまだ分かりませんが、六甲教会として、シノドスの動きに沿っていきたいです。

現在の六甲教会がともに歩むため、緊急の課題はかなり明白です。1年ほど前、評議委員の研修会を通して、世代交代を促進することが大切だという課題が示されました。その後、それを心がけてきたものの、さらに明確になってきたことは、単純な世代交代ができないという事実です。復活祭である程度的人数の方が受洗されました。しかしながら、帰天される方はかなりの数になり、転出される人を合わせると、年々、信徒数は減少の一途です。今まで教会活動の中核を担ってきた多くの方々は徐々に高齢期に入り、以前と同じような活動が難しくなってきました。次の世代は人数が少なく、しかも生活や仕事に余裕のない方が多いです。例えば、共働きのカップルは当たり前になり、定年は延長され、時間的に余裕がある人が多くないです。また、年老いた親の介護に時間がとられている人もいます。

六甲教会の今までの魅力は、多くのイベントがあり、活気があったということでしょう。他の教会の人から、いろいろの活動があっというらやましいと言われることもあります。しかしながら、多大な労力がかかる大きなイベントの開催は難しくなってきました。

このような現状から、皆がともに無理なく歩める教会の新たなあり方を模索していく時期に来ていると思います。具体的には、大きなイベントや集まりを縮小して、少ない働き手に過度の負担のかからない形を見いだしていく必要があります。つまり、私たちの身の丈に合った小さな集まりや新しい試みにチャレンジしていくことです。バザーの規模の縮小、地区会の役割の見直しも必要不可欠でしょう。

教会の目的は、教会のメンバーが祈りを深め、互いの交わりを大切にしながら、まわりの人びとに宣教していく、ということです。イベントや活動の形が変わったとしても、その本質的な目的をしっかりと見据え、今の時代に合った形を模索していきたいです。マイナスに考えるというよりも、より本質的なあり方を新たに創造していきたいです。神と心を合わせながら、若い人もお年寄りも、初めて教会に来る人も教会に来られなくなった人も、皆がともに歩める教会を新たに作っていきましょう。

6月9日（日）年次報告会で話したことです。



≪ 年次報告会 2024 ≫

6月9日10時ミサの後、「年次報告会」が行われました。

最初に英主任司祭より、本号教会報「巻頭言」（前頁）に書かれているとおりのお話をいただきました。続いて、小教区評議会の堤議長より2023年度活動結果が総括され、2024年度活動計画が発表されました。さらに宗行財務部長、施設管理部本下氏からも報告がなされました。

約100人の信徒の皆さんの出席がありました。

【2023年度活動結果および2024年度活動計画】

<p style="text-align: right;">2024年6月9日 年次報告会資料</p> <p style="text-align: center;">2023年度活動結果</p> <p style="text-align: center;">小教区評議会議長 堤 福生</p>	<p style="text-align: right;">2023年度活動結果</p> <h3>1. イグナチオの靈性に基づく共同体</h3> <ul style="list-style-type: none">(1) お告げの祈り(2) 六甲教会の祈り(3) 春と秋の黙想会：イグナチオの靈性を学ぶ(4) 靈性研究会（1回／月）
<p style="text-align: right;">2023年度活動結果</p> <h3>2. 交わりの共同体：年齢別と地区を通して</h3> <ul style="list-style-type: none">(1) 小教区研修会(2) コロナ前通常活動の再開 （典礼、教会学校、中高生会、青年会）(3) 新しいミサ式次第と新しいミサ曲(4) 壮年会・婦人会リニューアル(5) 地区会の活性化	<p style="text-align: right;">2023年度活動結果</p> <h3>3. 福音を伝える共同体</h3> <ul style="list-style-type: none">(1) 手話付きミサの実施 子とともにささげるミサの再開(2) 災害時対応(3) 新受洗者・転入者説明会(4) SNSチームの発信(5) 献金の仕方の変更
<p style="text-align: right;">2024年6月9日 年次報告会資料</p> <p style="text-align: center;">2024年度活動計画</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>《本年度の基本方針》 シノダリティーの精神を活かした共に歩む教会とする</p></div>	<p style="text-align: right;">2024年度活動計画</p> <h3>1. シノダリティーの推進</h3> <ul style="list-style-type: none">(1) 「シノドスの集い」の開催(2) 識別方法として「靈における会話」の推進(3) イグナチオの靈性に基づく共同体の推進<ul style="list-style-type: none">① 小教区研修会② ハラスメント対応 ・セーフティーガード委員会の設置③ 平和を祈る集い④ 春と秋の黙想会：イグナチオの靈性を学ぶ⑤ 靈性研究会（1回／月）
<p style="text-align: right;">2024年度活動計画</p> <h3>2. 交わりの共同体：年齢別と地区を通して</h3> <ul style="list-style-type: none">(1) 教会奉仕者養成講座の実施(2) 地区会活動の見直し <見直しの方針><ul style="list-style-type: none">・身の丈に合った活動と交流・大きなイベントから小さな集い・小さな試み① バザーの見直し<ul style="list-style-type: none">・蚤の市と衣料品販売は行わない・地区会の負荷の少ないバザーの実施② 地区交流会の実施	<p style="text-align: right;">2024年度活動計画</p> <h3>2. 交わりの共同体：年齢別と地区を通して</h3> <ul style="list-style-type: none">(3) 三日月会の役割拡大<ul style="list-style-type: none">・とりなしの祈りの継続・小さな集い、教会に来られない方へ高齢者のケアの検討(4) 壮年会・婦人会活動<ul style="list-style-type: none">・徳島教会への遠足

3. 福音を伝える共同体

- (1) 手話付きミサ、子どもとともに捧げるミサの継続
- (2) 災害時対応
 - ・防災セミナーの開催、防犯パンフレットの作成
 - ・災害の実行委員の任命と体制の確立
- (3) 新受洗者・転入者説明会
 - ・「教会生活のしおり」の作成
 - ・「教会案内」ツアー
- (4) SNSチームの発信

(堤 福生)



【財務報告】

1. 2023年度は黒字決算でした。
2. 月定献金がここ三年で約5%ずつ減少していますが、これは受洗者・転入者より転出者・帰天者の数が上回った、すなわち信者数の減少の結果ととらえています。
3. 今後、建物・設備等の老朽化による修繕費がかさむことが予想され、また大阪高松教区の納付金が増加することも予想されます。
4. これらの状況に対応するには、修繕費支出を含めて、なお収支差を維持することが条件となります。そのためには月定献金の減少を止めることが必要で、信者各位のさらなる協力をお願いいたします。

(宗行孝之介)

【施設管理部の報告】

1. 2023年度事業報告；安全で快適な空間創造を目標に実施した主要な事業は次の通りです。①駐車場西側のフェンスの更新、②ベルの演奏システムの更新、③小聖堂前の芝生張花壇の造園、④朗読台マイクの設置、⑤聖堂屋上の防水シートの貼替、⑥厨房と庭園の給湯器の更新
2. 2024年度事業計画；利便性が高く安心できる環境生成のための主要な計画事業は次の通りです。①聖堂排煙窓の駆動システムと機械の更新、②教会内のネットワークの構築、③藤棚下の整備、④イグナチオホールの雨漏り対策
3. 中長期修繕計画；教会の施設と設備の修繕項目を抽出し、修繕履歴・標準修繕周期・不具合の発生状況などを勘案して修繕項目に優先順位をつけて、優先度と緊急度の高い施設や設備から順次事業を実施することを原則に策定した中長期修繕計画は次の通りです。
 - ▶施設；①屋根および屋根樋の補修、②屋上防水シートの更新（聖堂2階・信徒会館）、③外壁塗装、④エントランス部の舗装改修、⑤駐車場の舗装の更新 等
 - ▶設備；①空調(GHP)の更新、②聖堂の音響設備の更新、③電気設備(受変電、空調、照明) 等
4. 考察；聖堂建設から約30年が経過し、修繕や更新を要する施設や設備が顕著になり、教会全体の維持保全のために多額の費用が必要なことを再認識しています。

(本下 稔)

第2回地区役員会議事録(2024/6/9)

日時：2024年6月9日 12:00～13:30

場所：第1, 2会議室

出席者・英主任司祭、堤小教区評議会議長、荏原小教区評議会副議長、地区役員

1. 主任司祭挨拶

私たちの力に見合った活動と行動をともに歩んで行ける教会にしたい。現在の教会の在り方は10年前にきめられたもので現在の状況は変わってきている。現状にあわせてできる範囲で実施していきたい。

2. 転入者・新受洗者説明会(6月16日)

現時点の参加者は約十名。地区役員の出席者を含めて約25名と想定。

転入者・新洗礼者の出席に該当する地区役員は出席すること。

該当地区：灘南、東灘北2・芦屋、東灘南、神戸西、北・三田、阪神

炊き出しグループ、ともしび会、手芸グループが説明予定、教会ツアーも開催。

3. 地区交流会開催(7月7日)

7月7日(日)10時ミサ後11:30～13:30

六甲教会の祈りでスタート、六甲教会の祈りで閉会。

〔内容〕 1) 自己紹介、近況報告

2) バザー開催(個人出店募集) 別紙チラシにて説明(教会報には添付なし)

サンドイッチ、飲み物、お菓子は教会から提供、おつまみは各地区持ち寄り。

・詳細は別紙地区交流会参照。(教会報には別紙添付なし)

4. バザー開催について

バザー企画グループの企画を説明。

- ・バザー企画グループ(堤 福生、荏原いずみ、井川直哉、藤井敦子)
- ・教会の方針；「身の丈に合った活動と交流。大きなイベント→小さな集い・小さな試み」に従い、大がかりな蚤の市、衣料品販売はなくし、個人やグループ出店を募集。
- ・地区交流会で各地区役員が個人出店について信徒の皆さんに説明、出店を募集する。
- ・地区交流会での各地区の信徒の意見(出店希望者の有無)等を7月21(日)の地区役員会で各地区報告することにする。*個人出店募集チラシ(案)参照(教会報はチラシ添付なし)
- ・応募状況によるが、各地区役員に個人出店の手伝い、食料品の販売協力を依頼する場合がある。

その他

1) 三日月会誕生日カードについて

当初、高齢者を把握し繋がりを保つ目的で自宅へのポスティングを地区会が実施していたがポスティングが負担になってきており、ほとんどが事務から切手を貰ってポストに投函している。ポストに投函しているのであるなら、地区会が対応する必要はなく、三日月会で対応して頂きたい。

2) 教会掃除マニュアル

- ・地区役員会終了後、有志で掃除用具点検を実施
- ・教会掃除のマニュアルを齋藤節子さん(灘北2)が6月末までに作成し各地区役員にマニュアルを送付することになった。各地区役員は追記等があれば齋藤さんへ返信のこと。

3) イグナチオ喫茶当番：7/7 地区交流会(各地区)、8/4 東灘北2・芦屋、9/1 灘北1・北三田 以上

第3回地区役員会 7月21日 11:30～

《 マリンバの響き 祈りと音楽の集い 》 =キリストの聖体の祝日に=

6月2日(日)の「祈りと音楽の集い」はマリンバとオルガンのコラボになりました。

マリンバは西尾知子さん(写真左)、オルガンは三浦優子さん。二人のコンビネーションはぴったり、宝塚ベガホールで過去にも共演されています。いつものオルガンに慣れた聖堂に、明るいマリンバの響きがさえわたり溶け合い、絶妙のアンサンブルが醸し出されました。曲目はバッハからロマン派の



フランク、グレゴリオ聖歌のアレンジなど多彩にわたり、耳慣れた名曲も多く聴衆を楽しませました。中でもP. クレストン(1906~1985)のマリンバ小協奏曲は、オルガンの「オーケストラ」をバックに得も言われぬ現代ふうの和音がつらなり、新鮮な感動を味わいました。

また、演奏に使われたマリンバの大きさにもびっくり、マリンバの下部にはパイプがあり、それが音板(鍵盤)の音を増幅して響き渡るのです。パイプオルガンとの相性が良いのがよくわかりました。数本のマレット(ばち)を駆使しての演奏はダイナミック且つ優雅でした。

おりしも教会暦でこの日は「キリストの聖体の祝日」。復活節を終え聖霊降臨を経て、いよいよイエスの歩みが力強く充実する期間にはいります。それにふさわしい演奏会になりました。演奏のお二人の解説も丁寧で面白く、初夏のひとときを満喫できました。主任司祭・英神父のごあいさつを頂き、イグナチオホールでの茶話会では歓談が尽きませんでした。

(詫 洋一)

《 新受洗者・転入者のための六甲共同体説明会 》

なにやらいかめしいタイトルですが、六甲教会の新しい仲間たちへのガイダンスの会です。6月16日(日)10時ミサが終わって、イグナチオホールで開かれました。司会進行は堤評議会議長。まず英主任司祭からご挨拶と六甲教会の全体の説明がありました。新しく出来上がった「教会生活のしおり」を、ページを追って丁寧に示しながら、教会の生活の神髄は「祈りと交わり」であるとお話をされました。続いて教会内の主な活動グループの説明。炊き出しやともしび会など社会活動部、趣味の「手芸の会」、典礼奉仕の一環をになう聖歌隊の説明があり、さらに地区会の説明と各地区の転入者、新受洗者の自己紹介が行われました。おひるになり、壮年会のみなさんが作って下さったサンドイッチと、ともしび会のヨーグルトムースをいただき、そのあと「教会案内ツアー」と銘打って教会内を巡りました。



案内人は英神父様。本来新受洗者・転入者を対象とした少人数ツアーのはずが、参加希望には信徒歴の長い人も挙手して加わり、結局15人近くの一団となりました。ツアーは、ホールに掛かるイグナチオ・ロヨラの肖像画の説明から始まり、主聖堂、小聖堂、ベルタワー、信徒会館など。要所要所の説明には、長く教会に通っていても知らないことがたくさんあり、素直な感嘆の声があちこちで上がりました。六甲教会のことをさらに知ることのできた一日でした。



私の好きな聖書のことば

マリア ルシア ピニェイロ今野 由美



『喜び祝う父の真心』 ルカ福音書 15・11-32

放蕩の末、苦しみの中で心を改め帰ってきた息子を抱きしめ接吻する父親。「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ」と喜びに溢れる姿には、天の父の慈しみと憐れみに満ちた無条件の愛が現れています。私たちも同じように、離れていた大切な我が子が帰って来たら、また見失っていたものが再び見つかったなら、喜びに溢れ共に祝うのではないのでしょうか。父親に従順に仕えた兄は、放蕩の末に帰ってきた弟を祝う父親に嫉妬し、家に入れません。父親は兄の荒んだ心に寄り添い慰めます。「子よ、お前はいつも私と一緒にいる。私のものは全部お前のものだ」と。遠く離れ苦しみの中で父の愛を信じ希望を見出した弟と、側にいて父の真心から離れた兄。相反する二人の息子を慈しむ父親の姿には、誰もが救われるようにと導く天の父の大きな愛が感じられます。突然帰って来た弟に心が揺さぶられる兄。しかし、この出来事が救いとなり、彼の心が解きほぐされ自由になる始まりではないのでしょうか。この愛の物語は、私の歩む道を照らし、いかなる時も父の真心を信じて希望を失わないよう励ましてくれます。聖霊の働きによって。

【7月の社会活動部の予定】・・・どなたでも参加できます・・・

7月3日（水） 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

7月13日（土） 10時半 炊き出し 小野浜公園（ポートルライナー貿易センター駅より東へ徒歩5分）。参加希望者は、事務所にご連絡ください。

教会から車で一緒に行きたい方は10時集合です。

・雨天時は10時に中央教会内の活動センター台所に集合。

但し、8時の時点で警報が出た場合は、炊き出しは中止。

7月19日（金） 9時半 ともしび会 教会台所

（児童養護施設のこどもたちへのケーキ作り）

ケーキ作りに興味ある方はぜひお寄り下さい。

事前申込不要。写真は6月のケーキ。



コーラス部からのお願い

コーラス部では、電子ピアノの伴奏で、より楽しく歌を歌いたいと思っています。そこで、今、お家で使っていない電子ピアノがあれば、ぜひご寄付・ご提供を頂けないかと願っています。

台(足)の付いたものを希望しています。お申し出は事務所までお願いします。

コーラス部世話係 北上千恵子



カトリック教会は、毎月、「教皇の祈りの意向」を示し、教会全体が日々の祈りの中で、その意向に基づいて祈るように招いています。7月の祈りの意向は、「病者への司牧的ケア」です。次のように祈りましょう。

「病者の塗油の秘跡が、それに授かる方とその方の愛する人たちに主の力を与え、誰の目にも共感と希望のしるしとして映し出されますように。」

≪ 黙想会に参加して ≫ (6月22日)



黙想会には何度か参加したことがあります。イグナチオの霊性という一つのテーマに沿って数回にわたって行われる黙想会は初めてでした。昨年の春に第1回が開かれ、半年ごとに開催、今回は3回目になります。前回、前々回は不参加でしたので、こま切れの参加ではよくわからないのではないかと考えていましたが、英神父さまの解説、講話は面白く、私のような中途参加の者でもじゅうぶんついて行ける魅力を持ったものでした。10時から30分ずつの講話と黙想が繰り返され、午前中に二巡して昼食休憩となりました。冒頭の講話では黙想と観

想の違いということを教えられました。ルカ5章のシモン・ペテロの召命の場面を示され、ゲネサレト湖のイエスと弟子たちを念じその場に身を置くこと、観念でなく臨在の感覚を磨き内的に迫ることがイグナチオ的観想である、とのお話でした。また、信仰生活のなかで慰めの時、荒みの時いかに過ごすかという命題には、特に荒みのときには何も変えないのがよい、迷わないことが良いとの教訓を得ました。

イグナチオの霊操の基礎を学ぶこの一連の黙想会はイエズス会の教会としての大切な集いであると信じます。申し訳なかったのですが、午後の予定があり、第4講話と黙想、さらにミサには与れませんでした。でも、私のように断片的に参加するのも悪くないと自己弁護しています。(詫 洋一)

≪ 幼児洗礼式に成人も ≫ (6月23日)

毎月第4日曜日は子どもとともに捧げるミサ。その6月23日(日)10時ミサの中で幼児3名(写真左から3人目まで)と成人1名の洗礼式が行われました。洗礼盤の前で聖水を受けるとき、どの子ども



順だったことに感心しました。英主任司祭は、だれでも聖書(マルコ4・35-41)にあるように“湖で嵐”といったピンチにあらうことがあり、子どもの場合はそれが宿題の多さだったりするし、大人も自分自身の生活の中でたいへんなことに巻き込まれたりするかもしれないとされました。

しかし、洗礼を受ける恵みというのは、自分自身の中にこれからはイエス様がともにいて下さるようになることなので、自分が一人で受け止め、乗り越えなければと思いつめず、不安や心配があっても、大丈夫だと思えるようになることなのだとお話されました。イエス様がともにいてくださることを改めて思い出す一日となりました。

◆6月号掲載の小教区評議会議事録(要約)の訂正

1. 英主任司祭の挨拶

第1項「会計の担当者も不在」を削除。以下に改めます。

「事務所の会計担当実務者が2人必要だが、現在1人なのであと1人が見つからない(あと1人を募集中)」

園芸だより

5月、聖母月を迎える頃信徒会館の入り口に一对の白百合（テッポウユリ）（写真上）の鉢植えが置かれます。今年は例年以上に沢山の蕾をつけた個体が次々に美しい花を咲かせていました。凜とした白百合はマリア様の母の強さ優しさ気高さを私達に伝えてくれます。以前は、宮嶋さんがお世話なさっていた震災記念碑周辺、信徒会館南面等花壇の一部にも植えられていましたが、イノシシが侵入を繰り返し掘りかえしてやり根を食べ、ついであちこち掘りおこすので、全球根を取り除きました。以来、聖母月に併せて宮嶋さんは、ご自宅で丹精込めて栽培された鉢を運んでくださいます。



聖母の象徴として描かれている白百合は地中海原産の「マドンナリリー」。蕾が縦に伸び、花は日本原産の「テッポウユリ」より広がって咲く。日本では「ニワシロユリ」という名で知られている。テッポウユリが丈夫で美しいので日本から輸出され海外で栽培が定着し、聖母の花として、こちらを使っている。

（写真下）が白い花の夏から秋にかけて実時の施設管理部の皆漏れが生じ空池となした。煤病になり廃棄の思いを繋げていく。ご覧になった元施設管理部の田上さんがとても喜ばれたことを思い出します。花壇のリニューアルにあたり、ギンコウバイは駐車場南面のソテツ近くに移植し生き生きと大きく育っています。



6月中旬頃、低木（ギンコウバイ）開花と同時に良い香りを漂わせます。をつけます。今の聖堂が建設された当様で手作りなされた日本庭園。池は水った真ん中の小島に植えられています。すべきか思案しましたが、先人の方々事になり丁寧に手入れをし直しました。

施設管理部 貴島せい子

地区交流会開催 7月7日(日)10時ミサ後

各地区がそれぞれの部屋に集い、信徒間の交流をはかり親睦を深めたいと思います。多くの皆さま、ぜひご参加ください。

軽食（サンドイッチ）、お菓子、ソフトドリンク、ビールは教会から提供されます。（ビールだけは有料）。 おつまみは各地区持ち寄りをお願い致します。

各地区の部屋割

- | | |
|-----------|----------|
| ・灘北1・北・三田 | イグナチオホール |
| ・東灘北2・芦屋 | イグナチオホール |
| ・灘南・神戸西 | 第1会議室 |
| ・灘西・中央 | 第2会議室 |
| ・東灘北1 | 第3会議室 |
| ・灘北2・阪神 | 第4会議室 |
| ・東灘南 | 第5会議室 |

ミサの音楽の話 その3

今回はミサ曲の中の「いつくしみの賛歌」についてです。

「主よ、いつくしみを。主よいつくしみをわたしたちに。／キリスト、いつくしみを。キリスト、いつくしみをわたしたちに。／主よ、いつくしみを。主よ、いつくしみをわたしたちに」2022年11月27日から実施された新しい式文から、このように、これまでの（1978年版）。「主よ、あわれみたまえ。～」から改訂されました。

ローマ典礼の中ではほとんどの部分がラテン語で唱えられますが、この賛歌のみが「キリエ・エレイソン」というギリシャ語で現在に至るまで使われています。（eleēson）、という言葉はキリスト教以前から太陽神、皇帝、王や祭司などを迎えるときに歓呼の意味で繰り返されていた言葉です。西暦300年代頃に教会に取り入れられてからは、最初は共同祈願に応える形で唱えられていました。次第に、ミサの開祭の部分で「キリエ・エレイソン」を3回、「クリステ・エレイソン」を3回、「キリエ・エレイソン」を3回繰り返す形が定着し、それが20世紀半ばまで使われました。その後、1970年に各々2回ずつ歌う形に改訂されています。「あわれみたまえ」から「いつくしみをわたしたちに」への変更は「キリエ」（いつくしみの賛歌）は、神への嘆願だけではなく、神を賛美する歌「賛歌」であるということをもあらわしているそうです。一つずつの言葉を味わいながら歌っていききたいものです。（なお、従来の言葉による、「あわれみの賛歌」も歌うことは可能です。）〔参考:新カトリック大辞典／感謝の祭儀を祝う(カトリック中央協議会)〕

典礼部 音楽チーム 三浦 優子

全国民必見のドキュメンタリー映画

「生きる」 大川小学校 津波裁判を闘った人たち

8月3日 13:30 開演 中央教会

震災から13年経った今も強いメッセージが伝わってきます。これからもいつ起こるかわからない災害。いざ、と言う時にどのように行動すべきか、教訓になる映画ですのでぜひご覧下さい。入場無料。詳しくは、掲示板ポスターをご覧ください。

(<https://ikiru-okawafilm.com/>)

主催：ふっこうのかけ橋実行委員

後援：神戸地区社会活動委員会



クリスマスチャリティーコンサート 出演者募集

野宿者を支えているカトリック社会活動センターを支援するチャリティーコンサートが12月7日（土）中央教会で開催されます。その出場者を募集しています。音楽のジャンルは問いません。

応募されるかたは8月11日までにシナピス神戸までお申し込み下さい。

申込要綱は掲示板ポスターをご覧ください。

主催：神戸地区社会活動委員会

【2024年7月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	福者ペトロ 岐部司祭と 187殉教者		聖トマ使徒		初金曜日ミサ 7:00 10:00	◎教会学校
7	8	9	10	11	12	13
年間第14主日 手話付きミサ 10:00 ミサ後地区交流会						教会学校終業式 社会活動部炊き出し 典礼部会 10:00
14	15	16	17	18	19	20
年間第15主日 小教区評議会 11:30 侍者練成会 12:00 中高生会キャンプ⇒	(~15日)				◎灘南・神戸西	◎土曜班
21	22	23	24	25	26	27
年間第16主日 地区役員会 11:30 侍者練成会 13:00	聖マリア (マグダラ)			聖ヤコブ 使徒	◎定期清掃	教会学校キャンプ 準備会
28	29	30	31			
年間第17主日 子どもとともに 捧げるミサ 10:00			聖イグナチオ (ロヨラ) 司祭			

◎は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止します。）

【編集後記】

- ◇小冊子「教会生活のしおり」ができました。新受洗者・新転入者の皆さんが配布対象ですが、事務室横の掲示板下に見本を置く予定です。
- ◇フランシスコ教皇が歴代教皇で初めてG7の共同セッションに出席され、そのスピーチで「AIは魅力的であると同時に恐ろしい道具」とされ、状況に対応できるだけの高度な考察が必要だと話されました。“「生成された神」に祈れるか”（日経新聞）という時代です。私たちが神を見失うことがありませんように。（N.O.）

<p>・次回8月号の発行は8月3日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。 (renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 <u>教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。</u></p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編集 集 広 報 部</p>
--	--